

平成28年度 第1回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録

日時：平成28年6月24日（金）18：30～20：30

会場：練馬区役所本庁舎20階交流会場

1. 事務局長挨拶

本日は、足元も悪く、夜遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。4月19日に第4次地域福祉活動計画完成の打ち上げと森本前委員長への感謝の会を行った。山浦委員に委員長をお願いし第1回目の策定・推進評価委員会となる。今日は、第4次の活動計画とネリーズの進捗状況を中心に検討していただきたい。現在ネリーズは250名になったということで4年間でなんとか700名はいけるかと思っている。

2. 委嘱状交付

福島委員に委嘱状を交付。

3. 配布資料確認

委員長より

前委員長より、あとは地域でやりなさいと言われており、実践となると難しいところもあると思うが頑張っていきたいと思うのでよろしく願いいたします。

4. 第4次地域福祉活動計画ユニバーサルデザイン版の作成

第4次地域福祉活動計画は、本編と概要版の2種類を発行している。練馬区が発行している「ずっと住みたいやさしいまちプラン」は、ユニバーサルデザインのガイドラインに沿って作られている。社協が発行している第4次地域福祉活動計画についてもユニバーサルデザイン版を発行したいと考えている。これに先立ち社協内でもグループワークを行い地域福祉活動計画のユニバーサルデザイン版の作成に取り組み始めた。今後、皆さまと共に作っていききたい。

質疑…(項目5の質疑の表記と統一)

・現在発行されているものはユニバーサルデザイン版ではないのか。

→これも近づいてはいるが、ユニバーサルデザイン版はさらに見やすいもの、わかりやすいものを作成したい。

→デジ版、点字版などは別に発行している。

5. 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画

本日は概要版を使ってごく簡単に練馬区の計画について説明をしたい。先ほど社協職員からユニバーサルデザインについての説明があったが、区の計画についてもガイドラインに基づき文章は分かりやすい表現とし、全てではないがルビを振っている。また、SPコードを入れて、色のコントラストも配慮している。概要版の2ページをご覧いただきたい。目標が、「ともに支え合う誰もが自由に社会参加のできるまち」ということで、一つめは「地域の人々がいろんなニーズのある方が暮しているという事に気づいてお互いに認め合っ

ていこうという視点が盛り込まれた目標になっている。この計画については、社協の地域福祉活動計画と同じく平成27年度から平成31年度の5年間の計画である。これまでは、地域福祉計画と福祉のまちづくり総合計画としてそれぞれが100項目くらいの取り組みがあったが、それをスリム化して重点的な事業を盛り込んで一つの計画にしていこうという事でこの計画ができています。

4ページ。(目標)「ともに支え合う誰もが自由に社会参加のできるまち」を実現するため、基本理念として「共感」「協働」「推進」、(取り組みの視点)「気づきの輪を広げる」「その人らしい暮らしを支える」「バリアの解消に取り組む」という視点に基づき、4つの施策を展開するという作りになっている。5ページ目を見ていただくと、4つの施策にぶら下がる形で49の事業を取り組み項目として盛り込んでいる。取り組みの詳細については、後程、冊子をご覧いただきたい。取り組み項目の多くは、社会福祉協議会の計画と重なる部分も多く、本日午後4時半から、区の計画の推進委員会もあり、この取り組み事業について意見をいただいていたところである。今回は、施策1の「災害時要援護者の支援を充実する」「やさしいまちづくり支援事業の創設」、河島課長にもご説明いただいた「地域福祉コーディネーターによる地域福祉の基盤づくり」についての3点について皆様からご意見をいただいていたところである。

質疑

- ・区民のみなさんから活発な意見は出ているのか。

→災害時における区と事業者との連携については、介護事業者や障害事業者による安否確認について、事業者との協定を締結することを検討していることを説明したところ、事業者とつながっていない人こそ安否確認が必要だというご意見をいただいた。

6. 第4次地域福祉活動計画の進捗状況

(1) 平成27年度・平成28年度取り組み状況報告→資料1に沿って説明

平成27年度は、第3次計画の重点的な取り組みである「小地域福祉活動の推進」「人材育成の充実」について、達成状況をふまえ、練馬区の地域福祉計画に合わせて第4次計画を策定した。先ほど原本係長からご説明のあった練馬区の「練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画」とも取り組みを共有し、それぞれの強みを活かしながら相互に連携をしていくものである。第4次計画は、「ひとりの不幸も見逃さない～つながりのある地域をつくる～」という練馬区社協の理念を実現するために、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」と「課題に気づき支えあう地域力の向上」という2つの目標をかかげている。この2つの目標を達成するために「日常的なつながりを深める(地域の気づきの視点)」と「今日的な地域課題に対応する(個別の育ちあいの視点)」という2つの視点で取り組む。また、住民それぞれができること、やっていることを社協も一緒に地域福祉向上にむけて取り組む「地域福祉協働推進員」通称ネリーズを創設した。

小地域福祉活動の推進においては、引き続きボランティアセンター・コーナーの各拠点において地域福祉コーディネーターを配置し、取り組んだ。改正介護保険法により新たに創設された生活支援コーディネーター業務、区の新たな施策である見守り拠点推進事業を受託し、すべて「地域福祉コーディネーター」と名称を統一しその役割を担い、取り組んだ。

(その他、各部署の取組みについて資料に基づき説明)

質疑

委員長) 資料がものすごく細かく感心した次第。福祉というのはこういう積み重ねで作られていくんだなと実感した。

委員) 同感。

委員) 同感。職員が一丸となって二つの視点に取り組んでいるというのが分かった資料。

この二つの視点そのものをどういう風につなげていこうとしていたのかを見直していたが、「地域の気づきの視点」で「日常的なつながりを深める」をこの1年間の取り組みの中でつながりがどんなふうに深まっていたのか、全体としてどういうふうに進んできたのかという事と、「個別の育ちあいの視点」の「今日的な地域課題に対応する」のかという事と、今後の作業として、練馬の地域全体としてどんなところが変わってきたのか、単年度では見えにくいと思うが、この先の計画期間の中でどのように変わってきたのか、区民にわかるようにしていかないといけない。

もう1点、区の計画の概要版の37ページにも地域福祉コーディネーターのページを割いていただいているという事で、区の計画との連携について活動計画側としてどんなふうに意識していけるのか考えていた。活動計画の中にも区の計画と連携するとは書いているが、具体的に例えば「やさしいまち」は、活動計画ではどういった部分と接点があるのか、計画全体の中では「地域福祉コーディネーター」がどう活躍していったらよいか、そういう部分を考えていかなければならないのではないかと。

→2つの視点(日常的なつながりを深める、今日的な地域課題に対応する)は体系図でしめされているようにつながっている。一方だけを進めるわけにはいかないことを実感した出来事が先日あった。

今年度、社協は、仲川係長(地域見守り拠点支援係長)と一緒に大泉西出張所でサロンをやっているが、先日一緒に、町の点検をした。集まった方たちは、引っ越してきたばかりの方もいて自分たちの町を知らず、つながりを求めてきている。一緒に町を歩いて「この町にも日中ひとりの方がいらっしゃるんだ」と気づいた。小さいことかもしれないけれど、やはり、地域福祉コーディネーターが地域に出向き、住民の皆さんとアクションを起こすことによって、いろいろな課題が見えてくるのではないかと思った。

計画との連携については、先ほど原本係長からも話があったが、地域福祉推進委員会の時に、本来社協から区の計画の中の地域福祉コーディネーターの話を説明するのはおかしいのではないかと思った。しかし、そもそも小さなエリアで地域福祉コーディネーターを配置したいと言ったのは社協の方で、区がそれを受け止めてくれて、それを掲載してくれたという事を私の方からも発信させていただいた。行ったり来たりかも知れないが、機会があるごとに伝えていくのが役割なのではないかと思っている。

委員) 地域の気づきの視点と個別の育ちあいの視点は密接にかかわっているとすると、今日まとめていただいている資料で、例えば地域の気づきの視点が今日の資料の到達点だとすると、それが個別の育ちあいの視点につながってさらに可能性が広がっていいなと思った。

委員) 精緻な資料を作るのも大変だったと思うが、地域福祉の課題というのは、このように細かく取り組んでしまうと全体像が見えにくくなってしまう部分もある。これはこれで良いが、例えばさきほど話があった事例を合わせて評価の中で紹介をしてもらえた方が姿が見えやすくなるのではないかと。その辺も検討してもらえるといいのではないかと。

副委員長) 白百合の見守りウォーキングについて回数が少なくなったとのことだが、理由は何があるのか。→年間を通して27年度は作業の忙しさや真夏などは利用者の健康状態への配慮もあり、当初想定した頻度で実施することはできなかった。一方で曜日を決めて強化月間を作りメリハリをつけて取り組むことで利用

者の地域活動への意識が深まったように感じている。

副委員長) 社協が区役所から外に出たことはいいと思うが、あそこまで相談のある人が行くのかどうか。相談件数など変化はあるか。ボランティアコーナーや白百合、かたくり、きらら、ういんぐなど外に出ている社協が頑張るのか。もう少し月日が経ってからもいいので変化を聞いてみたい。

→1階入口のドアが重いと障害のある人が言ってくれたおかげで開け放しになった。電動車いすの人に来てもらって意見を聞くなど、利用する人の声を集めている状態。

→今年度からココネリにある区民協働交流センターに出向いて出張相談を行っている。

→生活サポートセンターも4~6月は昨年度と変わらず、相談が来ている。

委員) 圧倒された。全体としてまとめた別の資料を作らないと誰も読まない。専門家の人は読むと思うが、その辺を配慮してほしいと思う。社協の移転については、表の電柱など公共施設のように看板を出せないのか。

→区と相談。

(2) 各委員会の報告→資料3に沿って説明

社協全体で取り組んでいる5つの委員会について、ポイントとなる点について報告をさせていただく。

- ・相談業務課題調整委員会は、拡大ケース検討会議を開催し、外部の方の参加も増え職員のスキルアップにつながっている。部署が増えてきたことにより、組織内連携についてのアンケート調査を実施した。
- ・広報委員会では、昨年度の成果として特に社協だよりのタブロイド版を作成し、新聞折り込みで全戸配布を行い、活動計画と連動させた。クイズの応募はがきに嬉しいお声も頂いた。「車いすの生活をしているがネリーズの登録は可能でしょうか」「作業所と学校の交流は大切だと思う。いろいろな人がいて世の中なのだということを小さいころから育てほしい」等の声をいただいている。28年度は、キャラクターの活用として商標登録や地域の掲示板の活用、ユニバーサルデザイン等を意識した。
- ・実習委員会は、記録の研修を実施。実習説明会を実施し学校との関係づくりにつとめている。様々な分野の実習生を受け入れている。今年度から司法修習生の実習生も受け入れる予定。個人情報の取り扱いについても確認する機会を持ち、適正に扱っている。実習の振り返りのため評価方法の見直しを行い実習の充実を図っている。
- ・安全対策委員会では、地域の方と一緒に災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を実施している。昨年度からは、視覚障害者、聴覚障害者の団体の方にも参加していただいた。また、職員が常に携帯しているミニマニュアルというものを作成し、連絡網やBCP等を記し実際に活用できるものになっている。
- ・財源検討委員会では、会費や会員制度について職員が理解すると同時に、会員の集いの実施をしており大変好評の企画になっている。今年度は、職員の意識を高めていけるような取り組みを行うとともに会員の集いについては、土曜日に実施し、新しい層を対象に企画を進めている所である。

委員) 広報委員会について質問したい。ネリーズについて250名の登録があったという話もあったが、広報的に工夫をしたところや今後工夫していくということがあれば教えて欲しい。

→後程ネリーズの報告の時にまとめてお答えしたい。

委員長) 職員の「スキルアップにつながった」で終わるのではなく、つながったから相談者への解決につな

がったとか、方向性を示せるようになった等にした方がよい。

(3) どんぐりの家の取り組み→資料4に沿って説明

これまでの経緯と27年度の取り組みについて説明をさせていただく。

平成25年12月に一軒家を遺贈として社協が受けた。まずは地域住民に見学会を実施。活用検討委員会を立ち上げ、民生児童委員などに呼びかけ毎月1回開催してきた。

多世代交流や寄り合いの場、支え合える場としてできたらと考えている。町会、地域の拠点として来られる場所ともなっている。知っていただくために第1回どんぐりまつりを開催した。社協とどんぐりの家管理委員会で建物の使用貸借契約をして、鍵の受け渡しをした。バリアフリー工事等をし、社協職員も運営委員となっている。毎月最終水曜日のサロン終了後にどんぐりの家運営委員会を開催している。

どんぐりの家まつりがJCOMの取材を受けた。

～JCOMの上映～

委員) サロン以外の日はどうなっているのか。

→有効活用して頂ければと考えている。常時人がいるわけでない。かたくり福祉作業所が月曜日掃除の作業をしているがそれ以外は空いている。

委員) 運営委員会の人はどういう人がやっているのか？

→民生委員や町会の方など。

委員) 毎日開けるにはそれだけ人が必要になるが毎日開くと良い。

7. 地域福祉協働推進員ネリーズの取り組み

(1) ネリーズ活動状況報告

ネリーズの取り組みの今後のスケジュールについて。ネリーズ通信2号もあわせてご覧いただきたい。ネリーズ通信は季節に一回発行を目標とし、ネリーズの活動や気づきを共有し身近な人とつながるきっかけとして情報発信している。ネリーズに登録して頂いた方は郵送、メール配信またはHPでご覧になれる。開進第4小学校でネリーズの説明をしたが、先生の計らいで7月に卒業した6年生が学校に来る機会があるのでその時にネリーズ通信をお渡しいただく予定。夏号は7月中に発行予定でのちほど報告させていただく。練馬地区と大泉地区のネリーズ懇談会の様子を掲載する予定。今後はまたネリーズから意見を頂いて一緒に作成していけたらと考えている。

全地区懇談会は地区懇談会(練馬・光が丘・石神井・大泉)とは別に年一回を予定している。

11月はネリーズ強化月間とし、全地区懇談会を11月下旬～12月上旬に考えている。イメージとしては、2年前の8月に行われた森本先生から社会福祉の施策の現状や今後の取り組みの方向性を学んだり、すでに取り組んでいる方々の話を伺ったようなシンポジウムの形で、ネリーズの皆さんにお話を伺えたらと思っている。

シンポジウムの開催の内容や前回の開催は平日としましたがどのような時間帯がよいのかぜひ本日はご意見を頂戴できたらと思っている。

地区懇談会については、各部署、委員も地区担当に分かれ、練馬地区、大泉地区は今月開催した。打合わせから策定委員と一緒に作るころから始めた。今後は7月から9月期で光が丘、石神井が開催予定。

ポスター掲示、チラシ配布開始、かるたについてはイベントにあわせて順次行っていきたい。

(2) ネリーズ懇談会報告

練馬地区の懇談会報告→資料5に沿って説明

6月16日に開催。

新しくできた情報コーナーで引越した社協の案内を兼ねて実施した。委員からも、そもそもネリーズとは何か、そして懇談会の集まりが地域の井戸端会議のようになったらと話していただいた。後半の意見交換では坂元委員と一緒に進行していただいた。新聞の折り込みでネリーズになっていただいた方からも、自分に何ができるかという不安がある方の意見もあったが、趣味活動からその場で地域活動に誘われる場面も見られ、参加者の中にはこのような場に出ることにつながりができるという声もあった。木内委員からは、今後も懇談会を開催することで練馬にネリーズの種をまくことになること、また参加した人が触媒となって活動を広げていけると良いとのご意見をいただいた。坂元委員からは、今回は活動者が多かったが、活動に参加していない人が気後れしてはいけない、参加しやすいものにならないといけないというご意見とともに、地域福祉活動計画の進め方のイメージができたとお話しいただいた。次回は9月ごろを予定している。さまざまな方が参加しやすいものをみんなで考えていきたい。

大泉地区の懇談会報告→資料5に沿って説明

6月18日(土)にかたくり福祉作業所の食堂で実施した。15名参加。大学生、ボランティアをしたい人、活動している人、民生委員など様々な人が集まった。情報交換を中心に懇談会を進めた。まずはなぜ今ネリーズが必要かという背景を話した。その後、自分の活動拠点を地図に落とし、お互いを知り合うきっかけとなった。ネリーズのみなさんからは、「人と人との関係ができてこそ安心安全の地域になる」「このような集まりは沢山あるが、作りっぱなしにならないようにしないといけない。」などの意見があった。

次回以降は、より具体的に、また、これから活動しようとしている人がより集まりやすい懇談会を開催したいと思っている。

委員) 団体としてネリーズに登録していたが、現在250名で目標が700名ということなので、できれば個人的に登録するようにと声をかけている。今回は様々な方がネリーズという名前で集まってくださり、時間が無くなるくらいの勢いで話してくれた。

委員) 初回としては良かったと思う。「つながることによっていいことができた」という経験、体験があると広がっていく、これからは具体的なものがあるといいと思う。

ネリーズ周知の工夫

→バッチを職員がつけている。

- ・社協が少しずつ行っている段階であると思う。地道であるが、それが社協活動。継続が難しいとあったが、メンバーが計画のユニバーサル版に参加するなど普通のアンケートだけでなく声を集約するのもありなのではないかと思う。

委員) 石神井はこれからなので、参考にしているのができたらと思った。他の地区のネリーズと共有できるといいと思った。もうネリーズさんとまだネリーズになってないネリーズさんとの懇談会もいいのかなと思った。ネリーズ通信の子どもたちの感想がいいなと思った。福祉がこうだという答えを教えたのでは

なく自分の言葉で書いているのがいいと思った。

8. その他

- ・平成28年度 熊本地震災害支援報告
- ・練馬区社協会員勧誘のお願い

9. まとめ

今日は、盛りだくさんで、具体的なことがたくさん出てきた。どんぐりの家に月に一回関わらせていただいているが80代の方で脳梗塞になった、その後トレーニングをしてきた人がいた。意欲的な人で話していて面白かった。デイサービスは嫌で自由に動きたいと。それがネリーズですよと思った。バッチや申込書を持ち合わせていなかったのも、どんぐりの家にも常に置いてほしい。その方の話を聞いただけでもすごく参考になった。希望を持てた。はじめの一步を動いたところであるが、具体的なことがあると活性化していく。広げていきたい。

第1回であったが、これからさらに具体的な話をしていきたい。

10. 次回日程

平成28年10月下旬～11月上旬を予定

候補日 平成28年11月7日（月）または10日（木）、11日（金）

以上